



第4回 岐阜イノベーション講演会 国際シンポジウム

Vaccine Development for Future 今後のワクチン開発のあり方を考える

予防薬であり感染症対策に有効なワクチンは、通常の治療用医薬品と異なった観点からもベネフィット・リスク(B/R)評価を行わねばなりません。そしてB/R評価は、ワクチンの開発、承認、使用のあらゆる段階の意思決定に、様々なレベルで用いられています。特にリスクが過剰評価されている中で、医学的のみならず社会的、経済的、倫理的にB/R評価を行うことが求められてきており、導入が決定された医療評価技術(HTA)の活用も視野に入っています。一方、新たなパンデミックに対応するためには、新しいワクチン製造や免疫能をコントロールする安全かつ有効なアジュバントなどの技術導入も含めた、短期間での開発、承認が必要です。さらに、発展途上国における感染症対策としてワクチンは非常に有効であり、我が国の国際貢献の一環として官民パートナーシップによる基金を介した取り組みがなされていますが、医療環境の整わない場所でもワクチン接種ができる剤形の開発も重要です。したがって過去の経験的判断のみならず、新しい判断基準の設定や柔軟なB/R評価が必要になってくるでしょう。

今後のワクチン開発のあり方を、日本とは異なった制度や評価も活用している海外の事例も参考にしながら、産官学各方面から議論していく講演会(国際シンポジウム)にしたいと考えています。

日時: 2016年10月6日(木) 12:30-17:00

場所: 岐阜薬科大学(本部)

住所: 岐阜市大学西1-25-4

講演会は英語で行われます。参加無料(先着順、事前登録も可能)

シンポジスト

神谷元 博士 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

Pieter Neels 博士(コンサルタント、ベルギー・ナミュール大学准教授、
元EMA VWP専門委員、元FAMHP)

Paul Scuffham 教授 (オーストラリア・グリフィス大学教授、
クイーンズランドメンジーズ保健機関 応用医療経済センター長)

中田文久 先生 (UMNファーマ取締役)

石井健 教授 (医薬基盤・健康・栄養研究所、大阪大学教授)



連絡先

岐阜市大学西1-25-4

岐阜薬科大学 グローバル・レギュラトリー・サイエンス寄附講座

特任教授 塚本 桂、特任助教 松丸 直樹

TEL&FAX: 058-230-8100、email: tsukamoto@gifu-pu.ac.jp、matsumaru@gifu-pu.ac.jp